

臨床心理士・公認心理師試験対策授業

留学生教育センター 特任講師
修士（法学） 狩野直樹

今回の担当教員は1月9日と同じでしたが、授業の進め方に変化が見られました。もちろんそれは良い変化で、本学のメソッドに沿ったものでした。教員が余分なことを言わず進行役に徹したことで、授業にリズムが生まれ、学生に集中させる効果もあったと思います。本学の公務員試験や国家資格試験対策の授業でメソッドが共通であることは大きな利点であり、このメソッドを開発した中島総長先生の偉大さを物語っています。

総長先生は今回も2コマ計3時間にわたる授業を見学し、ご指導なさいました。今回の授業で総長先生は学生に対して「まずは資格試験に合格することが大事で、真の勉強はその後必要に応じて自分ですればよい」と仰っていました。資格の有無が人生を左右することを思えば、これは至言でありましょう。

「試験に合格するために、授業での確認テストで満点をとる。これを繰り返し、また授業時間以外でも復習の繰り返しを怠らず、記憶を定着させることが大事なのだ。」このような基本的ではありますが、疎かになりがちなことを総長先生は学生に熱心に伝えていらっしゃいました。授業最後にはユーモアを交えて、学生が疲れたと感じることは良いことだ、なぜなら頭を使ったということなのだから、と励ましの言葉もかけておられました。総長先生によると、教員が疲れるような授業は良い授業とは言えず、教員は授業の進行・采配に徹すべきであり、学生に学ばせる、学生を鍛える授業こそよい授業である、とのことでした。そして授業での疲れが良い疲れになるよう、全員合格をめざしてこれからも頑張るよう激励されたのです。

今回の授業見学を通じて、中島総長先生が常におっしゃっている「公務員試験にどうやったら受からせることができるか」という点について、いかに余計なものを排除して、分かりやすく、かつ単純に合格する最短の道筋示せるのかを追及をしていく気持ちが高まりました。大変貴重な機会をいただき、ありがとうございました。